

# JAEF REPORT

令和6年4月5日

年4回発行(1,4,7,10月)

(公財)日本自動車教育振興財団 活動報告

## 【目次】

- ◆ 第31回理事会を開催、令和6年度事業計画・予算を承認
- ◆ 令和6年度自動車教育用教材の公募予定、“電動化”関連教材を追加

- ◆ 令和5年度講師派遣実績
- ◆ 動画学習サイト「早わかり!クルマ塾」に11本のコンテンツ掲載

## 第31回理事会を開催、令和6年度事業計画・予算を承認

…3月18日

財団運営

財団は、3月18日に芝パークホテルにて第31回理事会を開催した。同理事会では令和5年度の事業進捗状況が報告されると共に、令和6年度の事業計画・収支予算案等が承認された。

同事業計画においては、技術の進展により自動車産業が転換期を迎える中で、自動車の新技術に対する理解促進、自動車業界への理解促進・人材確保のニーズがますます高まっており、令和5年度に強化した技術教育支援事業を引き続き重点施策に据え、これからの自動車産業の担い手となるものづくり人材の育成支援、若者のクルマへの関心高揚・クルマファン作りに取り組む。

**ものづくり人材育成支援、若者の自動車への関心高揚のため、自動車技術教育支援活動の更なる強化を行う**

- ・電動化への理解促進のための新規教材としてEVミニカート・キットを採用。
- ・自動車の最新技術講師派遣の推進により、先進技術への理解促進、自動車への関心高揚を図る。
- ・上記促進のため、PR動画を作成。

技術教育支援事業においては、自動車の最新技術に関する活動(新教材の採用、最新技術に関する講師派遣)を強化し、自動車・機械系学科の他、電気・電子系学科の生徒にも自動車技術の理解促進を図る。また、自動車整備を担う人材の確保に向け、自動車整備に関する出前授業を検討する。

技術教育支援事業を強化する一方、賛助会費の減額が続いており、予算制約のために研修事業や調査研究・普及啓発事業については、一部活動を縮小するといった、メリハリのある事業計画とした。

研修事業においては、高等学校の先生方を対象とした教員研修会の実施回数を減らすものの、高等学校などへの出前授業として専門講師を派遣し、環境・交通技術や交通安全などを主なテーマにした出前授業は、コロナ禍前の水準を目標に実施する。

調査研究事業においては、基礎的情報収集として国内外の調査を、回数を減らして実施する。

普及啓発事業においては、外部団体HP・各種ツールを活用し、先生方に近接した機会、動画コンテンツ視聴促進、財団支援活動等の認知度向上を図る。また、財団の重点取組「自動車技術教育支援活動の更なる強化」の一環として、“自動車技術 講師派遣” PR動画を制作・公開する。

収支予算については、収入面では賛助会費の減額が続いており、令和6年度は、前年度予算と同額の約8,100万円となる。支出面では、技術教育支援事業の強化を図るべく、提供用教材の新規設定や提供対象校の拡大等に要する適正な運営予算を確保しながら、既存業務の縮小により、前年度予算比170万円増にとどめ、約8,400万円となる。結果、収支は、約300万円の赤字となる見込みである。



財団の使命である「ものづくり人材の育成支援」、  
 「若者のクルマへの関心高揚・クルマファン作り」に引き続き取り組んでいくには、健全な財務基盤が必要です。そのためにも、財団活動をより理解していただき、新規賛助会員の獲得や、既存の会員からの賛助会費増額に結びつくような努力を重ねていきたいと考えています。

引き続き皆様のご支援、ご協力を賜りたく、よろしくお願いたします。



▲第31回理事会の様子

## INFORMATION

4~6月予定

- 理事会、評議員会を開催 5、6月
- 令和6年度JAEF研修会参加者募集開始 5月下旬
- 令和6年度自動車技術教育用教材提供の公募開始 6月上旬
- 令和6年度講師派遣を実施 4月~6月

## 令和6年度自動車教育用教材の公募予定、“電動化”関連教材を追加

技術教育

### 令和6年度

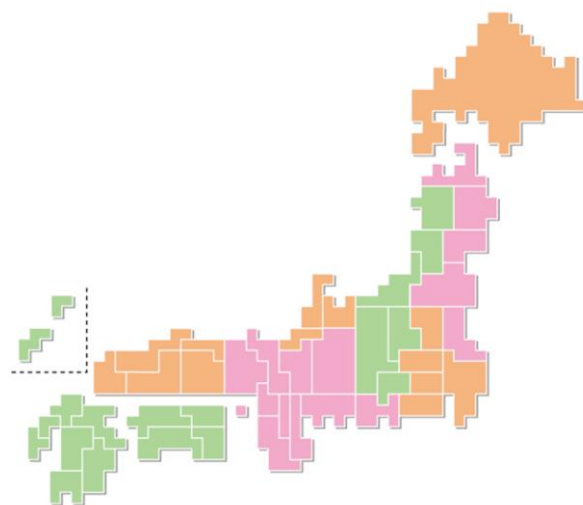
青森、岩手、宮城、福島、茨城、静岡、岐阜、愛知、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、三重、和歌山（15府県）

### 令和5年度

北海道、栃木、埼玉、東京、千葉、神奈川、富山、石川、福井、鳥取、島根、岡山、広島、山口（14都道県）

### 令和4年度

秋田、山形、新潟、群馬、長野、山梨、香川、徳島、愛媛、高知、福岡、大分、佐賀、長崎、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄（18県）



財団では、自動車に関する技術教育支援のため、全国工業高等学校長協会、全国総合学科高等学校長協会、全国自動車教育研究会に加盟している高等学校を対象に公募を行い、広く実験実習用教材や自動車技術教材を無償で提供している。

今年度は、6月1日（予定）より7月中旬までの1か月半をかけて、令和6年度の自動車教育用教材の公募を実施する（下表日程参照）。対象は、右の日本地図のピンク色の15府県の313校で、およそ120校への提供を見込んでいる。

教材メニューは、教育現場のニーズや理解を深めるべきクルマの基本的な構造・技術の重要性を踏まえ、適宜見直しを実施してきた。今回は、クルマの電動化への理解促進を図るための新規教材「EVミニカート・キット」を設定する。電動化が進む自動車業界では、自動車・機械系のみならず、電気・電子系の知識習得も必要となっている。当教材は、車体の分解組立に加え、モーターの分解組立・プログラミングについて理解を深めることができる。よって、高等学校の自動車・機械系、電気・電子系の学科間で横断的に協力しながら、電気自動車について学んでもらうことを期待している。

また、動画教材『自動車の基礎・電気』（全10本）をリニューアル。従来のDVDでの提供ではなく、生徒の自習用としても活用できるよう、オンデマンド配信により視聴できる形式とする。

### 【日程】

6月1日	: 募集要項案内
7月中旬	: 応募締切
8月下旬	: 教材提供校・提供教材決定
10月～2月	: 教材提供

### 令和6年度新設教材「EVミニカート・キット」



### リニューアルした動画教材『自動車の基礎・電気』



▲自動車の基礎 Vol01  
エンジン概要



▲自動車の基礎 Vol03  
マニュアルトランスミッション



▲自動車の基礎 Vol04  
安全装置

## 令和5年度講師派遣実績

研修

令和5年度の講師派遣実績は、開催件数339件（前年度差+53件）、キャンセルは12件（同▲17件）とコロナ禍前に近い水準に回復した。参加者も97,034名（同+17,373名）と大幅に増加した一方、1回あたりでは286名と、コロナ禍前（令和元年度）に比べ▲56名と減少した。新型コロナウイルスの感染症法上の5類移行後も感染予防対策として、開催規模を抑制する傾向が続いている。

全339件の分野別内訳は以下の通り。

分野	件数	対象
1) 交通安全	298	社会科系及び生徒指導担当の先生並びに生徒
2) 環境・交通技術	3	
3) 自動車技術	38	主に工業系の生徒

研修会メニュー別実績件数は以下の通り。

### 1) 交通安全：計298件

ドライバー・自転車・歩行者から見た交通安全	228
夜間の交通安全対策	26
自転車を取り巻くリスクとその責任	26
交通事故を起こして問われる責任	16
二輪車（バイク）の交通安全	2

### 2) 環境・交通技術：3件

自動運転と倫理法律問題	2
自動運転技術が拓く未来と人との協調	1

「交通安全」「環境・交通技術」の高評価率（※）は96%と、令和4年度から2ポイント向上した。これは、講師の方が、クルマのドライバー視点による自転車利用者の動画投影や、スマホの”ながら運転”などの身近なテーマを取り上げたり、自動運転および交通問題の動向を平易に解説するなど工夫し、対話型の講習を実践していただいたことによるものである。

先生方からは「生徒が真剣に受講し、主体的に考える良い機会となった」など、感謝の声が寄せられた。

※ 高評価率：実施報告書で5段階評価中「大変良かった」「良かった」の合計

### 3) 自動車技術：計38件

最新技術：生徒対象	37
整備技術：教員対象	1

実車を使った燃料電池自動車及び電気自動車の仕組み等の説明や整備士の仕事に対するやりがい・思い入れを聴くなど、通常の授業では得られない「観て聴いて触れて」の体験を通じ、生徒が自動車技術に対し関心を高める研修会となった。

講師については、全339件のうち、336件を地元の自動車教育推進協議会メンバーに担当いただいた。

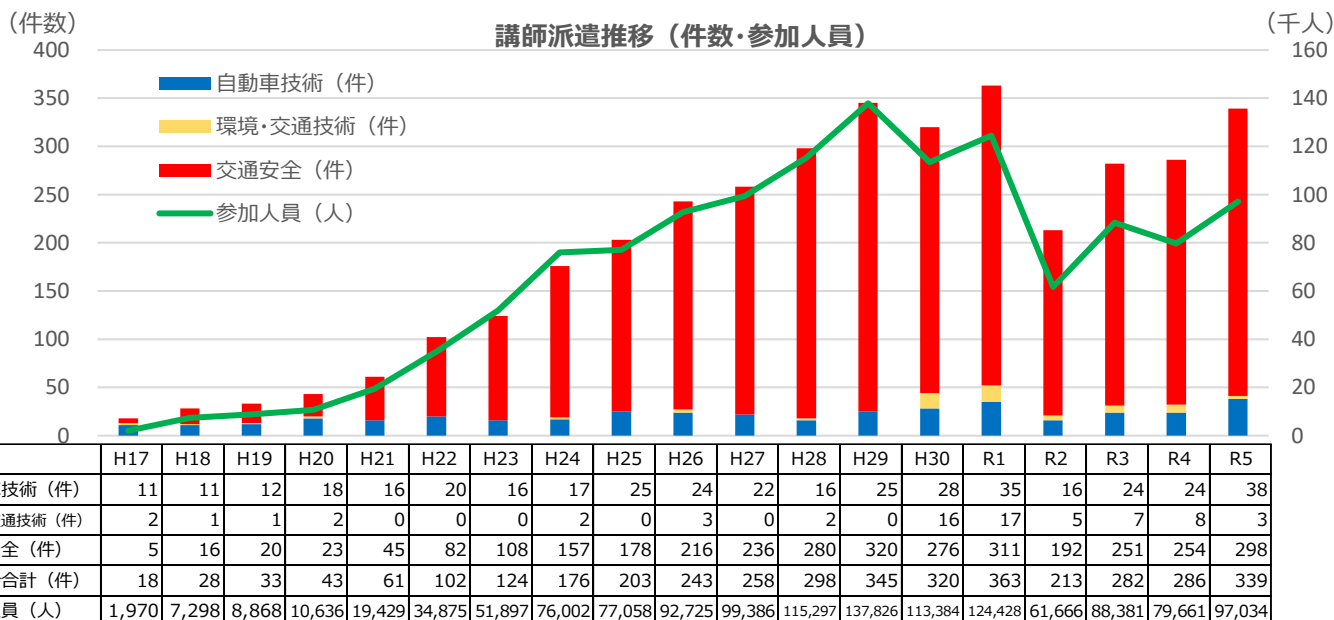
講師派遣にご協力いただいた関係団体・企業の皆様に紙面をお借りして深謝申し上げます。



▲山形県立小国高等学校での講師派遣（交通安全）の様子



▲広島市立広島工業高等学校での講師派遣（自動車技術）の様子



※平成17年度以降掲載

## 動画学習サイト「早わかり！クルマ塾」に11本のコンテンツ掲載 …… 1～3月

普及啓発

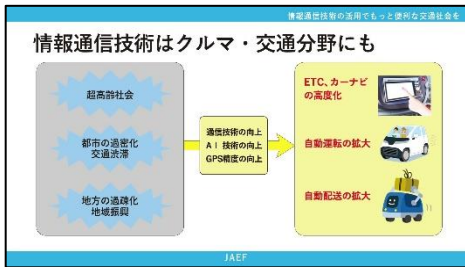
財団は動画学習サイト「早わかり！クルマ塾」にて、1月からの3か月間で合計11本のコンテンツを財団ホームページに掲載した。

情報通信技術の活用を通じた交通社会での利便性向上（1本）の他、社会的課題解決に貢献するAIを搭載したモビリティ（計5本）、フランスでの脱炭素化の取組（計5本）をテーマとした動画を制作した。

令和5年度は、当11本を含め合計19本のコンテンツを掲載した。本年度もコンテンツの追加、及び視聴促進に注力しながら、自動車教育支援の更なる強化、クルマへの関心・理解向上を図っていく。（以下、動画タイトルに続く〈〉は掲載日）。

### ➤ 『社会と自動車の調和〔1〕情報通信技術の活用で もっと便利な交通社会を』〈3/1〉

交通社会問題などに、クルマの技術進歩がどのように貢献できるかをテーマとしたシリーズ動画の第1弾。「超高齢社会」などの課題に対する、通信・AI技術を活用した具体的な取り組みを紹介。



### ➤ 『Honda CIが拓く 人と機械の協調運転（乗る編 第1回）』『同（第2回）』〈3/6〉

ホンダが少子高齢化等の社会的課題解決のために開発しているAI「Honda CI（Cooperative Intelligence：協調人工知能）」を搭載した2種類のモビリティ（自動走行車両、歩行支援ロボット）の機能や動きを解説。



▲『Honda CIが拓く 人と機械の協調運転（乗る編 第1回）』より



▲『Honda CIが拓く 人と機械の協調運転（乗る編 第2回）』より

### ➤ 『Honda CI 導入のきっかけ 交通事故ゼロ社会への具体策（聴く編 第1回）』を含む計3本〈3/12〉

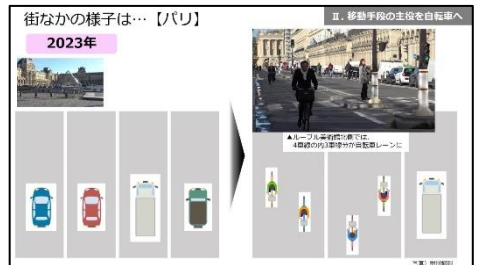
「Honda CI」の開発責任者へのインタビューもとに、Honda CIの目的、特長そして将来の社会にもたらす変化などを解説。



▲『Honda CI 導入のきっかけ 交通事故ゼロ社会への具体策（聴く編 第1回）』より

### ➤ 『フランス現地調査報告Ⅰ. 脱炭素社会を目指すフランスの概要』『同Ⅱ. 移動手段の主役を自転車へ』〈3/15〉

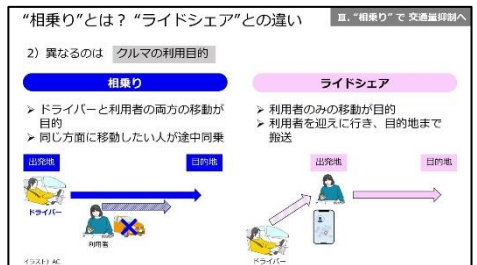
昨秋実施した現地調査の報告動画。第Ⅰ章では同国概要と環境対策に積極的な背景を、第Ⅱ章では自転車利用促進の取組と現状を紹介。



▲『Ⅱ. 移動手段の主役を自転車へ』より

### ➤ 『フランス現地調査報告Ⅲ. “相乗り”で交通量抑制へ』『同Ⅳ.クルマの電動化 新車の7割をEVへ』〈3/25〉

仏調査の報告動画の続編。第Ⅲ章は「相乗り」の定義を始め、政府や自治体による利用促進策を解説。第Ⅳ章では、EV普及促進の背景とその施策を紹介。



▲『Ⅲ. “相乗り”で交通量抑制へ』より

### ➤ 『フランス現地調査報告Ⅴ. 環境・人に優しい交通インフラ 他』〈3/29〉

仏調査の報告動画最終章で、パリ市周辺部での新鉄道網建設、同市内の主要ラウンドアバウト廃止等を紹介。

